

Letter for Members

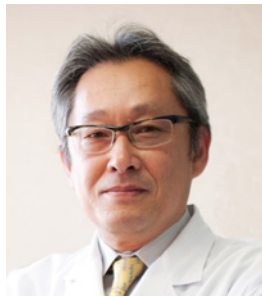
【コンテンツ】

- 理事長からの挨拶 …………… 357
- 設立 80 周年記念第 122 回学術大会 …… 358
 - 122 回学術大会
 - 平成 25 年度専門医研修会
 - 市民フォーラム

理事長からの挨拶

国民から愛され、歯科界の発展に貢献する学会づくりをめざして

公益社団法人
日本補綴歯科学会
理事長 矢谷博文



現在、わが国の医療制度は重大な危機を迎えています。社会構造や疾病構造の変化を背景に医療費が増大し、国の医療費抑制策により歯科医療の経済基盤は大打撃を受け、良質の歯科医療の提供さえ危うくなっている状況にあります。その中で、公益社団法人日本補綴歯科学会は、より質の高い学術情報の発信と健康増進に直結する活動を通じて国民の健康な暮らしや豊かな人生に貢献します。そして国民から愛され、歯科界の発展に貢献する活力の高い学会づくりをめざします。

1. 健康科学としての歯科補綴学の主導

歯科補綴学が人々の健康増進により貢献するためには、歯科補綴学という狭い専門領域にとどまることなく、健康科学・生活科学としての歯科補綴学に脱皮しなければなりません。そのような視点に立った施策を学会活動の基本とします。

2. 補綴歯科臨床の発展

補綴歯科臨床技術はすでに成熟しているとの意見も

ありますが、上記視点から見た場合、学会主導で行うべき仕事は多く残されています。すなわち、学会主導の臨床研究の推進、それらの結果を基にした EBD に資する臨床エビデンスの構築、臨床ガイドラインの作成と公開などを通じて補綴歯科臨床が人々の健康にいかに関与しているかを国民に明示するとともに、蓄積した学術情報の臨床歯科医による利用を促し、補綴歯科臨床全体のレベル向上に繋がります。

3. 財政基盤安定化と会員数増加による学会活動の充実

より安定で透明性のある学会運営を行うため、学会事務局の充実と財政の無駄の見直しを図り、公益社団法人に求められる単年度収支のわずかな黒字を維持します。その上で、学術大会における臨床的催しの増加、会員向けホームページの充実、国内外の他学会との学術大会や催しの共催、学会誌のさらなる充実、補綴歯科臨床に関する会員向け刊行物の発刊、歯科技工士、歯科衛生士による学会活動の場の創設などを通じて会員メリットを向上させ、会員数の増加を図ります。

4. 本学会の国際的役割の整備

国際他学会との人的交流、国際的学術集会の日本開催、JPR 誌の重要補綴関連雑誌への格上げなどにより本学会の国際的役割を整備することに加えて、本学会がアジアにおける中心的役割を担えるよう留学生の受け皿づくりや留学基金創設などを通じてアジア諸国との交流を深めます。

公益社団法人日本補綴歯科学会 設立 80 周年記念第 122 回学術大会

メインテーマ

「臨床イノベーションに貢献する補綴歯科—新たなステージに向かって—」

●設立 80 周年記念第 122 回学術大会開催

公益社団法人日本補綴歯科学会設立 80 周年記念第 122 回学術大会が平成 25 年 5 月 18 日(土), 19 日(日)に佐藤博信教授(福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野)を大会長として福岡国際会議場にて開催された。大会テーマは、「臨床イノベーションに貢献する補綴歯科—新たなステージに向かって—」であった。

学術大会に先立ち、17 日(金)に福岡銀行本店ホールにて記念コンサートが催された。出演者は安永徹氏(バイオリン)と市野あゆみ(ピアノ)で、ブラームス、エルガー、クライスラー、ラフマニノフらの曲が演奏された。多くの一般市民の参加を得て、静寂な環境の中美しい音色に参加者は皆耳を傾けていた。

学術大会の初日の第 1 会場は、臨床スキルアップセミナーで幕を開けた。「咬合違和感に対して、歯科医師は何を考えなければいけないか?」と題して、藤澤政紀先生、石垣尚一先生の進行で、松香芳三先生による「咬合違和感を訴える患者に対して行う検査」と玉置勝司先生による「咬合違和感を訴える患者の診断と治療方針」の講演が行われた。咬合の違和感という対応が困難な症例への考え方や対処法に関する活発な討論が繰り広げられた。続いて、臨床リレーセッション 1「ここまで来たデジタル補綴—その精度と将来—」(日本 CAD/CAM 学会, 日本歯科技工学会共催)が行われた。三浦宏之先生、中村善治先生の進行で、小川匠先生に

よる「Virtual Reality 技術と CAD/CAM 補綴の臨床応用」、風間龍之輔先生による「デジタルインプレッションの臨床的有効性」、木村健二先生による「変遷期にさしかかった CAD/CAM 歯科技工」が講演され、デジタルデンティストリーの現状と今後の課題について活発な討論が行われた。午後はまず、アメリカ・ヴァンダービルト大学医学部医療統計学の新谷歩先生による教育講演「国際誌にアクセプトされる医療統計」が、矢谷博文先生の進行のもと行われた。医療統計学に関する基本的な考え方から実際の統計処理方法にわたり貴重な情報が提供され、学会員にとって大変有益な講演であった。続いて、臨床リレーセッション 2「インプラントと天然歯の共存を考える補綴治療計画」(専門医研修会)が催された。澤瀬隆先生、尾関雅彦先生の進行で、松下恭之先生が「インプラントと天然歯の共存を研究的観点から考える」、城戸寛史先生が「インプラントと天然歯の共存を考慮した咬合再構成」、田中秀樹先生が「天然歯のパフォーマンスとライフステージを考えた新時代のインプラント補綴のコンセプト」、武田孝之先生が「インプラント治療に何を求めるか」と題して、講演された。

第 2 会場では、課題口演によって幕が明けた。「臨床効果の評価」、「バイオロジー」、「トランスレーショナルリサーチ、臨床イノベーション」の 3 つの課題について選出された計 9 名のファイナリストによる発表



懇親会開宴直前の和やかな様子



口演後の質疑応答の様子(第 2 会場)

と指定質問者との質疑応答が行われ、審査が行われた。シンポジウム1「超高齢社会の中で社会、患者は何を求めているのか？」(日本老年歯科医学会、日本口腔インプラント学会共催)では、櫻井薫先生、市川哲雄先生を座長に、田中靖代先生、大川延也先生、市川哲雄先生(座長兼演者)、萩原芳幸先生の講演があった。委員会セミナー1(専門医研修会)では、「専門医の現状とその将来」と題し、鱒見進一先生、河野文昭先生を座長に、前田芳信先生、鱒見進一先生、會田英紀先生の講演があった。イブニングセッション1「臨床イノベーションのための若手研究者の挑戦: バイオマテリアル・エンジニアリングの新たな展開」では、横山敦郎先生、岡崎定司先生を座長に、山田将博先生、神野洋平先生、土井一矢先生の講演があった。

第3会場では、主に一般口演が行われた。一般口演の後、イブニングセッション2「臨床イノベーションのための若手研究者の挑戦: 治療、検査法の新たな展開」では、山森徹雄先生、服部佳功先生を座長に、山口哲史先生、渡邊恵先生、熱田生先生の講演があった。

第4会場は第1会場のサテライト会場とした。専門医研修会では参加者が多く、サテライト会場にも関わらず満席状態であった。

初日の全講演終了後、博多リバレイン5階アトリウムガーデンにて懇親会が開催された。佐藤博信大会長、田中健蔵学校法人福岡学園理事長(来賓代表)の挨拶の後、江藤一洋日本歯科医学会会長のご発声にて乾杯を行った。会の中途では、松村英雄副理事長による日本補綴歯科学会80年の歴史のスライドプレゼンテーション、新理事長、前理事長、歴代理事長・会長へのメダル授与が行われ、会の始めと終わりにバンドの演奏によるアトラクションも催されるなど趣向を凝らした懇親会であった。総計400名の会員、非会員が参加され、にぎやかに情報交換が行われた。

2日目の第1会場では、まず臨床リレーセッション3「病態から考える欠損歯列のリスク」が開催された。宮地建夫先生と大川周治先生の進行により、鈴木尚先生、皆木省吾先生、森本達也先生、鷹岡竜一先生の講演が行われた。特別講演では、ドイツ・フライブルグ大学教授 Jörg Rudolf Strub 先生による「Digital workflow in reconstructive dentistry」と題した講演が行われた。近年急速に発展して来たデジタルテクノロジーによる歯科領域における検査、データ収集、治療計画から外科手術、CAD/CAMテクノロジーによる修復治療に至るまでのオーバービューと今後の展開についてわかりやすくご教授いただいた。続く理事長講演「社会に貢献する補綴歯科臨床の推進—80周年を節



新谷歩先生の教育講演



特別講演後の Jörg Strub 先生(左)と座長の佐藤博信大会長(右)

目として—」では、矢谷博文新理事長が今後の学会の方向性や具体的な活動に関する抱負を述べられた。午後の臨床リレーセッション4(専門医研修会)では、佐々木啓一先生と水口俊介先生を座長として、水口俊介先生、小出馨先生、阿部二郎先生、上濱正先生が講演をなされた。前日と同様、第1会場およびサテライトの第4会場とも満員になるほど盛況であった。

第2会場では、シンポジウム2「垂直破折歯根の接着再植治療」(日本接着歯学会、日本歯内療法学会共催)が、松村英雄先生と佐藤亨先生の進行で菅谷勉先生、眞坂信夫先生、峯篤史先生によりご講演いただいた。続いて、委員会セミナー2「金銀パラジウム合金の代替材料を探る」(日本歯科理工学会共催)が催され、末瀬一彦先生と大久保力廣先生の座長のもと、宮崎隆先生、新谷明善先生、大久保力廣先生の講演が行われた。午後のシンポジウム3「個別化医療で補綴歯科治療は変わるか: EBMから個別化医療へ」では、魚島勝美先生と窪木拓男先生を座長として、二川浩樹先生、馬場一美先生、大庭伸介先生による講演が執り行われた。



ランチョンセミナー参加者の長蛇の列



企業展示会場の様子

学会の最後のイベントとして、第2会場で課題口演優秀賞受賞者4名、課題口演賞受賞者5名、優秀ポスター賞であるデンツプライ賞受賞者6名、カボデンタル賞受賞者2名の表彰式が執り行われた。

両日を通して2,400名を超える参加者を迎え、また市民フォーラムも参加者が400名を超え、口頭発表66演題、ポスター発表156演題と演題発表も多く、

盛会のうちに幕を閉じた。本大会の準備にご尽力いただいた市川哲雄学術委員長、学術委員会の皆様、学会関係各位、ならびに後援、共催団体各位に厚く御礼申し上げます。ご参加いただきました皆様にも設立80周年記念大会として盛り上げていただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(福歯大・松浦尚志)

●平成25年度日本補綴歯科学会専門医研修会報告

平成25年度日本補綴歯科学会専門医研修会は、平成25年5月18日(土)19日(日)の両日に第122回学術大会に併せて福岡国際会議場にて開催された。18日(土)には、臨床リレーセッションとして「インプラントと天然歯の共存を考える補綴治療計画」というタイトルで4名の演者の先生の講演が行われた。九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座口腔生体機能工学の松下恭之准教授が、「インプラントと天然歯の共存を研究的観点から考える」、福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野の城戸寛史教授が、「インプラントと天然歯の共存を考慮した咬合再構成」、九州支部の田中秀樹先生が「天然歯のパフォーマンスとライフステージを考えた新時代のインプラント補綴のコンセプト」、東京歯科大学臨床教授の武田孝之先生が「インプラント治療に何を求めるのか?」と題して講演された。その中で長期に天然歯とインプラントが調和を図り共存するには患者さんのライフステージに合わせた補綴治療計画がいかに重要であるかを、研究と症例を交えながら示されていた。また同時刻に委員会セミナーとして「専門医の現状とその将来」というタイトルで3名の演者の先生の講演が行われた。大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座歯科補綴学第二教室の前田芳信教授が「補綴専門医はどうあるべきか：JPS Global Workshop Kyoto 2012の提言か

ら」、九州歯科大学口腔機能学講座顎口腔欠損再構築学分野の鱒見進一教授が「専門医制度の見直しと今後の流れ」、北海道医療大学歯学部咬合再建補綴学講座の會田英紀准教授が「補綴専門医を標準化するツールとしての症型分類」と題して講演された。今後の補綴歯科専門医の方向性を把握するのに有益な内容であった。

19日(日)には、臨床リレーセッションとして「全部床義歯臨床の頂をめざす方たちへ」というタイトルで4名の演者の先生の講演が行われた。東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野の水口俊介教授が「ドグマ議論の復習と義歯評価に関する最新の知見」、日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第一講座の小出馨教授が「全部床義歯の咬合に関わる内容を検証する」、東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野臨床教授の阿部二郎先生が「下顎全部床義歯の吸着を達成するための重要ポイント」、東関東支部の上濱正先生が「義歯形態を決定するデンチャースペースについて」と題して講演された。その中で全部床義歯製作のポイントとなる、咬合、吸着、義歯形態についてわかりやすく解説され、臨床と教育にすぐに役立つ内容であった。

会場は両日も専門医更新予定者ならびにこれから専門医を申請しようとする多くの会員の先生方で満員となる盛況であった。専門医の臨床において更なるステップアップを目指す内容が多く含まれており、非常に有意義な研修会であった。(医歯大・関田俊明)

●市民フォーラムのご報告

日本補綴歯科学会が公益社団法人となって第一回目の市民フォーラムが、設立 80 周年記念第 122 回学術大会の併催企画として、社会連携委員会の企画・運営により、平成 25 年 5 月 17 日に福岡銀行本店ホールで開催されました。

「噛む一命の臨床、義歯を語る」というタイトルで、日本大学松戸歯学部教授・川良美佐雄先生の進行のもと、大分県佐伯市でご開業の河原英雄先生による講演が行われました。命の臨床というタイトルが示すように、河原先生はいかに噛むという咀嚼行為が人間の Quality of Life、若返り（審美的にも、脳の活性化に対しても重要であること）、延命に重要かということをお話下さいました。特に、寝たきりの患者が義歯による咀嚼回復と河原先生および医療スタッフの熱心な励ましによって歩けるようになったという実例を動画でお見せ下さったことには、会場の市民の多くの方々が大きな感動を覚えたものと思います。また、情熱あふれるお話しの中に、頻繁に先生独特のジョークを交えたトークによって会場からたびたび笑いが起こったことは非常に印象的でした。講演後、市民の質問に対する丁寧な回答がなされ、市民フォーラムは幕を閉じました。

今回の市民フォーラムは参加者が優に 400 名を超



市民フォーラム前に続々と入場する市民

える、学会史上最多の市民の参加を得ました。フォーラムの前に併催された記念コンサートから多くの市民に美しいバイオリンとピアノの音色に聞き入っていただき、その後に義歯、咀嚼の話を聞いていただくという豪華な企画でしたが、これほど多くの市民が参加されるとは嬉しい予想外でした。本当の意味での市民フォーラムとして成功裏に終わりましたこと、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

(福歯大・松浦尚志)



【投稿募集】

Letter for Members では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、公益社団法人日本補綴歯科学会事務局 (jpr-edit01@max.odn.ne.jp) まで、メールにてお寄せください。